

大学名：京都外国語大学

ASPUnivNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します (加盟に関する相談も含む)	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	本年度は新たにユネスコスクール加盟を希望する学校からの相談はなかったが、2021 年度に加盟申請支援を行った盈進中学高等学校が、チャレンジ期間を経て、無事キャンディデート校に認定され、2023 年度は同校に対して出張講義、本学留学生を交えたフィールドワーク、英語で行うキャンパスツアー等を実施しさまざまな交流を行った。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	2023 年度は以下の支援を中心に行った。 ・京都外大西高等学校：留学プログラムの事前事後学習支援 ・奈良育英中学高等学校：SDGs に関するゼミ(講義)に係る講師派遣 ・京都市立安朱小学校：大学生有志によるボランティア通訳補助(発表会)
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	ESD に関連する専門分野の教員が、上記のユネスコスクールに対して出張講義、フィールドワークを実施することができた。その他、ESD に関連する専門分野の教員が、英国はじめ海外 9 か国のユネスコスクールの生徒や教員、関係者が来日した折に、京都府内のユネスコスクールである一燈園中学高等学校での能楽授業、京都市立安朱小学校での環境授業、京田辺シュタイナー学校高等部での平和討議等について相互の交流をコーディネートし促進するなどの支援を行った。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	一部行事について高校側等の事情により実施できなかったが、次年度は京都府内のユネスコスクールに対してワークショップなどの実施を検討している。
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	国内外の地域コミュニティとの協働・連携を通じて、共通する課題解決に取り組む本学のプログラムとして、奈良育英中学高・高等学校や京都外大西高等学校、盈進中学高等学校と連携し、高大連携教育プログラムである英語キャンプやフィールドワークを開発、発展させている。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	地域のステークホルダーに対する働きかけについて、十分な活動はできなかったが、次年度は京都府内のユネスコスクールと連携した取り組みを本学ホームページに掲載するなどの対応を検討していく。
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	SDGs に積極的に取り組む地域の企業、博物館、寺社、団体等の協力を得て高大連携教育を実施することで、SDGs への理解を深めることができた。

	た。	
	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	来日された海外からのユネスコスクールとの交流に関連して、京都府内の加盟登録校(小学校・中学校・高等学校)との連絡や支援を地域における京都ユネスコ協会や京都市教育委員会等とも連携した。
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	地域をこえたステークホルダーに対する働きかけについて、十分な活動はできなかったが、次年度は京都府外のユネスコスクールと連携した取り組みを本学ホームページに掲載するなどの対応を検討していく。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	英国ユネスコスクールナショナルコーディネータ主催の平和のための芸術と文化イニシアティブ京都行事が開催され参加・協力をした。海外から8か国(欧州・アジア・中東・アフリカ等)約50名のユネスコスクール学習者・教育者・関係者が来京し、本学からは学生有志9名及び教員3名が参加協力し、学習者・教育者等と学術及び文化交流が行われた。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例:ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	<p>広島県の盈進中学高等学校の生徒向けに行った、以下のプログラムについては日本人学生だけではなく、留学生も参加し、全て英語で行われたことから、ユネスコスクールのグローバルな活動に向けた支援となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ English Tour in Kyoto (留学生とのフィールドワーク) ・ 進路体験学習 (留学生・バイリンガル日本人学生との学内交流イベント) <p>京都府内のユネスコスクールである一燈園中学高等学校・京都市立安朱小学校・京田辺シュタイナー学校高等部が海外9か国(欧州・アジア・中東・アフリカ等約50名)からのユネスコスクールの児童・生徒たちと、全て英語でグローバルな観点から文化・環境・平和について交流することの支援を行うことができた。</p>
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	上記の行事やプログラムなどについて大学内で広報をしている。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	<p>ESD・ユネスコスクールに関連する教育課程については、現時点では行っていないが、2024年度から次の教育を行う準備をすすめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ通訳育成プログラム <p>国際規格である「ISO13611:2014 通訳ーコミュニティ通訳※のためのガイドライン」認証取得のコミュニティ通訳者育成を目的として、公益財団法人京都市国際交流協会と包括協定を締結。本学では、2024年度にコミュニティ通訳に関する専門科目を新設するとともに、ユネスコスクールの学びに通じる多文化共生社会の一翼を担う人材を育成する。</p> <p>※コミュニティ通訳とは、言語の障壁があるために医療・教育・社会福祉・行政・司法等の公的</p>

		サービスにアクセスできない外国人住民を支援するもの。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	ASPnet及びASPUnivNet加盟大学である玉川大学との学生交流及び共同研究を継続して進めており、大学間交流と協働による課題探求や解決への可能性を追究している。
	④ その他	<p>【人権週間 2023「多様性」の開催】 障がい者週間とコラボレーションし、様々な角度から多様性を「知る」「考える」「体験する」ための4つのイベントを開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話講座&手話歌ミニコンサート「手話でつながろう こころの輪」 ・ブックトーク「多様性～ダイバーシティ～」 ・特定非営利活動法人 ALIZE 講演会&車いすアメフト体験 「KUFSDiverCityProject～多様性を京都外大に～」 ・小原プラス氏トークイベント <p>【共生のための手話に関する講演会の開催】 ・「共生のための手話に関する講演会」 本学国際貢献学共同研究「言語を活かした平和構築を目指して：多文化共生社会の観点から」の教育の一環として実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本手話—日本語とは異なるもう一つの日本の言語」 学生や教職員（手話部・障がい者支援室含）約20名参加。協定大学の韓国釜山外国語大学もオンライン参加・ <p>【リーダーシップ・チャレンジinサイパンの開催】 外国語を用い、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での協同活動を通してリーダーシップ（スキル・知識・態度）を身につけることを目的として開催。</p>
6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	ASPUnivNetの一環として愛知教育大学及び愛知県教育委員会等の研修会に参加し、京都市も含めた全国の小学校・中学校・高等学校の取り組みの発表や考察などを共有した。また、福山市立大学(広島県)とも交流し助言等をいただき、地域の支援を行っている。
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	
	③ その他	—